

解答

一

- 問一 ウ
- 問二 イ
- 問三 男が火花を通じて描く風景は、直接眺めている気分させ、「ぼく」の目を捕えてはなさなかったから。
- 問四 最初…心の半分が／ 最後…이었다。
- 問五 ルーカスが釣りに出た時、ボートの故障により三日間漂流し、タンカーに乗せてもらって戻ってきた（という冒険）
- 問六 A エ B イ
- 問七 C 胸 D 目
- 問八 エ
- 問九 イ、エ
- 問十 a 束 b 険（しい） c 映（った） d 群（れ）

二

- 問一 「依存」と「不信」
- 問二 熱機関の発明
- 問三 科学の進歩によって大きな不安をかかえるようになった（こと）。
- 問四 科学への不安が取り除かれるかのような気分になり、神秘の世界に逃げ込むことで安心感も得られるから。
- 問五 エ
- 問六 一つ二つの問題を根本的に解決することなく、できごとに対応するばかりで、より事態を悪化させること。
- 問七 手持ちのデータを駆使して、未来を予測すること
- 問八 2
- 問九 ア ○ イ × ウ ○ エ ○
- 問十 エ
- 問十一 a そし b うわやく c の（べる） d じうい

解説

二

- 問二 ——部②を含む段落の内容から、「それ」とは、それまでの人力や馬力に頼る生活を一変させたものであることがわかるので、鉄鋼や自動車など重厚長大の産業の基盤となった「熱機関の発明」が抜き出されます。
- 問七 ——部⑦の次の段落に着目すると、「私は、手持ちの」で始まる一文に、筆者の意見が表れていることがわかるので、設問の指示に従って「手持ちのデータを駆使して、未来を予測すること」を抜き出します。